

倫理法人会は朝礼の推進に力を入れていますが、会社毎に内容が変わることはありませんが、朝礼の意義はどのような業種・人数であつても変わりありません。

保険代理店業を営むN氏は、朝礼に興味がありませんでした。社員を雇用していない自分には、朝礼は関係がないと思つていたからです。そんな氏がある時、経営者モーニングセミナーで「朝礼は一人でもできる。一人でもやつたほうが絶対にいい」という話を聴きました。「よし、自分もやつてみよう」と思つた氏は、『職場の教養』の最終頁に記載されている「本誌活用の手引き」に従つて「一人朝礼」を始めました。

「開始十秒前です。姿勢を正して下さい」を経営者モーニングセミナーの進行のように元気に発声して、朝礼がスタートします。『職場の教養』の輪読はできませんが、本文を声に出して読み、感想も声に出して述べます。「今日の心がけ」まで一人で斉唱して、「以上で朝礼を終わります。ありがとうございます」と言つて締めくくります。朝礼が終わり、業務がスタートします。

N氏はその後、試行錯誤を経て、次のような流れで一日のスタートを切っています。朝礼をする場所は、神棚の前。横には姿見の鏡を置いて開始します。

開始）朝の挨拶

「開始三十秒前です。姿勢を正して下さい」（鏡で服装確認し、気をつけの姿勢で待つ）

「月 日 曜日、ただ今よりNコンサルティング」

「神棚に意識を向けて」

「N家のご先祖様、おはようございます。」



## 一人でもやればできる 活力朝礼を実践しよう

（神棚を象徴に、関係者を思い浮かべて）  
取引先の皆様、おはようございます」  
挨拶実習

続いて「挨拶実習」を一人で行ない、鏡で姿勢をチェックします。

職場の教養

一人で本文を読んだ後、感想発表・今日の心がけ斉唱を行ないます。

誓いの言葉）終了

「只今より、実践の決意を誓いましょう。今日一日、朗らかに安らかに喜んで進んで働きます」。以上で朝礼を終わります」

一人朝礼を始めてから一カ月が経ちました。それまでは出社時間が曖昧でしたが、朝礼を始めてから一定の時間に職場に着いている自分に気がつきました。それから半年後の現在、N氏は次のように言います。

「一人で仕事をしていると妥協しやすく、公私のケジメがなかなかつきませんでした。今は朝礼開始時間を決めて、一日のスタートを切っています。以前は机に座つた後にも仕事に気持ちが入りにくかつたのですが、朝礼でケジメをつけると、『今から仕事だ』という切り替えができるようになりました。そのためか、一日の働きの密度が濃くなつたように思います」

朝礼の第一義は「仕事のスタートにあたり、ケジメをつける」ことにあります。

「今日の誠意とエネルギー」は今日中に出し切り燃やし尽くしてこそ、明日は一層豊かに湧き出てくるもの。それが繁栄の基盤です。そこに人数の多少は関係ありません。

今日一日を完全燃焼する決意を固めて、一日のスタートを切りましょう。